

6. イチゴ疫病に対するマンゼブ・メタラキシル水和剤の効果（技術）

[要約]

イチゴ疫病に対し、マンゼブ・メタラキシル水和剤の処理は高い防除効果を示し、残効も長い。

研究室名	病虫研究室	連絡先	0869-55-0543
------	-------	-----	--------------

[背景・ねらい]

最近、育苗期及び本圃での生育初期から疫病が発生して問題となっているが、登録薬剤は少ない。そこで、疫病に対するマンゼブ・メタラキシル水和剤（商品名：リドミルMZ水和剤）の育苗期における防除効果を知り、防除上の資料とする。

[成果の概要・特徴]

1. イチゴ（品種：さちのか）のポット(9 cm) 苗を用い、疫病菌 (*Phytophthora nicotianae*) の遊走子懸濁液を灌注接種の 14、7、1 日前にマンゼブ・メタラキシル水和剤 1,000 倍液を散布 (50ml/株) した区では、いずれも無処理区に比較して高い予防効果が認められた (表 1)。
2. 無処理区では、接種 40 日後まで発病株率が高まったが、処理区はいずれも長期間の発病抑制効果が認められた (表 1)。

以上の結果から、マンゼブ・メタラキシル水和剤 1,000 倍散布 (50ml/株) は育苗期のイチゴ疫病に有効である。

[成果の活用面・留意点]

1. 本剤の登録は育苗期のみで、株当たり 50ml 散布の 3 回以内である。
2. 発生圃場では育苗期に株元によく薬液がかかるように予防的に散布する。
3. 本剤は感染の初期には治療効果が期待できるが、地上部に症状が現れた時には手遅れなので、速やかに苗を処分する。

[具体的データ]

表1 マンゼブ・メタラキシル水和剤の育苗期処理の効果^z

処理時期 ^y	接 種 後 日 数							
	7 日		1 7 日		3 0 日		4 0 日	
	発病度	防除価	発病度	防除価	発病度	防除価	発病度	防除価
1 日前	3.3	80	6.9	80	8.3	81	4.6	91
7 日前	2.8	83	4.6	86	5.6	87	6.9	87
14 日前	1.9	89	2.8	92	1.9	96	6.9	87
無処理	16.7		33.8		44.4		53.7	

^z 1区当たり24株を調査した。^y 処理時期は接種前日数で示す。

[その他]

試験研究課題・事業名：イチゴに発生する疫病などの生態解明と環境負荷の低い防除体系の開発

予算区分：国補（病害虫防除農薬環境リスク低減技術確立事業）

研究期間：平成16～18年度